

高橋剛商会ニュース

(株)高橋剛商会
〒170-0002
東京都豊島区巢鴨
2-16-4-203
TEL 03・3576・5811
FAX 03・3576・5815
フリーダイヤル
0120・76・5812

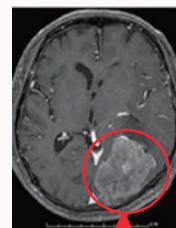
お客様・販売者・メーカーの絆となる情報交換誌です。



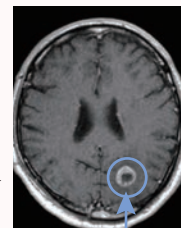
脳腫瘍ステージIVからの生還【後編】 生きる力

先月号では、弊社代表平城匡史氏と、末期の脳腫瘍をご両親に隠していた平城氏のご長女Aさんのお二人の話から、Aさんがご病気から奇跡的に回復していった経緯を報告させていただきました。

本号では、少し視野を広げ、病気の治癒とは、「心と身体のバランスを取り戻していくプロセス」という見方から、Aさんの事例について弊社なりの考えをまとめさせていただきました。



H25年4月の検査時。
日本での手術は不可
能との診断



H26年5月の検査時。
『バランスα』飲用後、
劇的に縮小へ

■がんを克服する「心と身体」のベクトル

Aさんは、ご自分の闘病体験を回想した手記(メモ)に「心のバランス」という表題を付けてくれました。

20代の若さで、想像すらしなかった脳腫瘍が発覚し、すでに日本では手術ができないほどの大きさになっていたのですから、心に受けた衝撃はどれほどだったのでしょうか。

ご病気に対し、なすすべもないまま、一人苦しみ、気を取り直してはまた落ち込む日々の繰り返し。生と死のはざままで心の平衡を失いながら、ご病気が奇跡的ともいえる回復をみせ、心のバランスを少しずつ取り戻していきました。

がんとの闘いは、免疫力と腫瘍細胞のせめぎ合いであると同時に、「生きたい」という希望と「恐れや苦しみ」から生まれる絶望とのせめぎ合いかもしれません。

身体の働きである免疫力=自己治癒力が、一見、心の問題とも思える「生きる力」というものに大きく左右されることは、今日の臨床医学において常識です。

死と向き合い、なお「生きようとする力」を奮い立たせることができた人には、周囲にその人を理解し、思いを受け止め、支えてくれる人の存在があります。

Aさんの場合は、婚約者のUさん、友人のOさんがいました。そのお二人に当時のAさんとの関わり方を伺い、改めてその思いを強く持ちました。

今回は、「生きる力」というテーマを掘り下げ、「免疫システム」という身体機能と、「心」というメンタルな作用とが、相互にどう作用し合っているのかにも着目してみました。



最初に、Aさんのその胸の内を綴った手記を簡略にまとめさせていただきました。時の流れに順んじていますので、前号をご覧になっていない方々にも、彼女のがんの告知から回復にいたるまでの経緯が、わかりやすいかと思います。

H25/4月

●がんの告知

自分のがんになるなんて、告知されてもピンとこない。テレビや映画の中のできごとのよう。

●余命の実感

病院通い、身体もだるい、残りの人生は半年か、1年。そんなことを漠然と考え、「そんなもんかなあ」と投げやりな気持ち。

●私なりの覚悟

家族のことを考えた。散々、好き勝手に生きてきたし、このまま押し切ろうと。心配され、同情され、泣かれる…、そんな悲しむ顔は見たくない。今まで通り、笑顔でピース。家族には絶対言わない。今できる事、やりたい事とことんやろう！

この頃は周囲に対し、なんとか元気にみせようと必死でした。どうすれば長く生きられるかなんて考えたくなかった。心はいつも乱れ、ふさぎ込んでいました。

H25/10月

●友だちに話す

誰にも言わないと決めただけ、友人の前で倒れたり、高熱で約束をドタキャン、迷惑を繰り返すのが嫌。病気のことを話して気が重くなった相手が離れていくのは仕方がない覚悟で話すと、しっかり受け入れてくれた。告知されてから人前ではじめて泣いた。

●婚約者に話す

付き合いはじめたのは告知から数ヶ月たった頃。おデート中に倒れることも度々あったけど、彼にはてんかんと嘘をついた。でも、迷惑をかけ、なおかつ終わりがあるものに付き合わせたくない。打ち明けて自分から別れようと決めた。けど、彼の反応は私の考えとは裏腹にしっかり受け止めてくれた。変な人だなとも思ったけど、嬉しくて、同時に悲しくて、泣いた。

大切にしたい人たちに病気や自分の考えを受け入れてもらったことで、少し落ち着いたかもしれませんが。わずかだけれど、生きたいとも思えるように…。けれど、一人になるとすぐ落ち込みました。家族に内緒にしていることも重かった。

H25/11月

●父にバレて

思ったより長く生きていることで浮ついていた。彼と一緒に叔母さんと飲み、倒れて救急搬送。目覚めると父の家。病気を隠してきた意味を考えると、すっかり滅入った。

●父と話す

バレたら仕方ない、ただ自分の意志は曲げたくない。わがまま、親不孝でも病院暮らしなどまっぴら。正直に話した。どうしたいかも全部。話をしながら自分でもこれでいいのかと、不安が

つる。話し終えた父と別れるとき、父の涙が悲しくて、本当に親不孝な娘……。

●『バランスα』を飲みはじめる

父がすぐバランスαを大量に送ってきた。とりあえず飲みなさいと。バランスαは知っていたけど……。父の気持ちをむげにしたいなくて飲む。また、バランスαで末期がんから回復した人がいると聞いたばかりなので飲んでみた。いわれた通りがぶ飲み。

親には言わないでおこうとあれほど固く誓ったのに、自分がふがいなくて情けなかった。また、一方で『バランスα』を飲むことで、もしかしたら少しは良くなるかもしれないと、淡い希望を抱きはじめてきたことも事実です。

H25/12月中旬

●『蓮バランスα』を飲みはじめる

新たに送られた試作中の『蓮バランスα』の原液が飲みづらい。ふつうの『バランスα』より、はるかにきつい下痢。でも、とにかく効くからと高橋剛さんのゴリ押しでがぶがぶ。

H26/1月中旬

●『梅のバランスα』に切り替える

『梅バランスα』の発酵が順調に進んだとのことで、こちらに切り替える。専門的なことはわからないけど発酵途中の『蓮バランスα』より飲みやすかった。

H26/3月初旬

●劇的な変化

月2回ほどの通院は、検査、経過報告、薬の処方くらい。バランスαの飲用からしばらくたち、検査のあと先生から呼び出し。あーもう終わった、と思ったが「腫瘍が劇的に小さくなってよ！」と。このときの気持ちを表す言葉がみつからない。バランスαが効いてるのかなと、はじめて実感。父に、バランスαに、感謝。

H26/5月中旬

●さらなる変化

病院から今度は朝一番で来るようにと連絡。今度こそ終わり…という思いも。けれど、違い先生方が大集合して、「腫瘍がいっそう小さくなっている、この状態なら日本で手術できるかもしれない」との報告。告知のとき日本での手術は無理といわれたし、いまさらいわれても手術を受けるつもりはなかった。

頭の中が真っ白でした。泣いて父に報告すると、飛び上がるほど歓喜してくれて、婚約者に報告すれば、私以上に涙を流してくれて。このときの気持ちを表せる言葉はいくら考えてもうまく見つかりません。

婚約者U君のお話



■がんを打ち明けられて

彼女とお付き合いをはじめたのは、昨年の8月です。その前から一緒にお酒を飲むことも多かったのですが、飲んでテンションが上がると急に意識を失うことがたびたびあり、本人はてんかんの発作と説明していました。

付き合ってからひと半月ほどたった頃、「お話ししたいことがあるから」と、彼女の家に近い公園でお話を聞きました。しばしば意識を失うのは脳腫瘍が原因、末期に近くいつ死んでもおかしくない、だからこのまま付き合っても良いことないよ、という

内容でした。

病気のことは大変おどろきましたが、彼女のどこか自虐的な言動や、何かを必死で守っているような様子、頻繁に起こる発作などが一つにつながり、「そうか、そういうことだったんだ」と納得したことを覚えています。

ほんの一握りの友人以外、親にも兄弟、親戚にも話さず(話せず)、自分だけで抱え込んできたんだろうと思うと胸が詰まりました。

その彼女の気持ちをシェアし、共に歩いていける相手になりたいと、そのとき切に思いました。何がいつ起きるかわからない、いつ帰らぬ人になるかもわからない、それでもいられる限りとことん一緒にいようと決心しました。だから早い時期と一緒に暮らすことが、自分の中で具体的な目標となりました。

■自分にできることは何だろう

倒れたときにどう対処するか、僕がまず学んだのは意識を失ったときの対応です。

気を失っても呼吸が正常なら5分まで待つ。その間に意識が戻れば救急車は不要。5分してもまだ意識が戻らないようなら、かかりつけの先生に連絡をとり、救急車を呼ぶ、というのが彼女からの指示でした(幸い11月にお父様の家に運び込むことになるまで、そういう事態は起きませんでした)。

本当は病院にも一緒に付いていきたい、と何度も頼んだのですが、彼女は頑なに「病院には私一人で行く」といい張って同行を許してくれません。病気のことはあくまで自分で考え、自分で決めるというのが、彼女の譲れない線ですから、僕にできるのは彼女が自力でできないことをフォローすることだと思っています。



友人Oさんのお話

■スノーボードで仲良しに

Aさん(普段はちゃんづけで呼び合う仲)とはじめて会ったのは、一昨年の冬、お互いに習いたてのボードに夢中の頃で、一緒に何度もボードしに行くうちに親しくなりました。

■Aさんの不調を問いただすと

昨年、スノボ・シーズンがはじまった頃、彼女がゲレンデで体調が悪くなり、レストハウスからずいぶん遅くなって降りてきたことがありました。

様子がおかしいので二人だけのときに問いただすと、「じつは……」と、話してくれたのです。とてもショックでした。お医者さんからは、もう長くないといわれている、賭けみたいな手術は絶対にしたくない、親には秘密にしている、今はできる限り普通に生活し、大好きなボードも必死にやり、先のことをあまり考えずに、とにかく生きてることを楽しんでいきたい、というようなことを話してくれました。

■私にできることはほんのわずか

私は何をいってあげればいいのかわからないけど、打ち明けてくれたことが嬉しかった。彼女が生きたいように生きてほしい、私で力になれることなら何でもしてあげよう、と思いました。

乗りの良い子なので、みんなが「遊び行こう」と誘えばいつも乗ってきたけど、それからは「具合が悪いときは無理しないで」と声かければ、「今回は熱あるから止めとく」と素直にいつくれるようになりました。

腫瘍が小さくなって本当に良かった。今年はボードの新しい技にも挑戦しようね。



『バランスα』が

自分を取り戻すキッカケを作ってくれた……Aさんより

告知を受けてからというもの、心の中はいつも不安だらけで「生きたい」なんて少しも思いませんでした。

心のバランスを少しずつ取り戻せていけたのは、理解してくれる友人や恋人の支え、そして何よりのきっかけは『バランスα』が作ってくれたように思います。

飲みはじめは半信半疑でしたが、高橋剛さんがいうように、自分自身の『生きようとする力』が大切なんじゃないかと思えます。『バランスα』によって元に戻ろうとする体に心が反応し、本来の自分に戻る転機をくれたような気がするんです。

いま生きていて楽しい。毎日のちょっとしたことに幸せを感じます。こんな風に思わせてくれた友人、婚約者、そして『バランスα』を無理やり飲ませてくれた父に心から感謝しています。

「生きる力」を根底で支える【免疫システム】の活性化

■がんと免疫システムの競争

腫瘍の成長が続くのは、何らかの理由で免疫システムが停滞しているからです。成長スピードの速い腫瘍の場合、免疫システムの正常化にかかる時間と、腫瘍の進行と、どちらが早いかの競争になります。Aさんのケースは、脳腫瘍の成長がわりと遅く、ステージ4まで進んでも、そこから免疫システムが腫瘍の成長を追い越して、一気にがん細胞、腫瘍を駆逐していきました。

■免疫システムを支えるのは栄養素の摂取

サンプルを取り寄せられる方々から、「バランスαってがんに効くんですか」と聞かれます。その答えはもちろん「効きません」です。

『バランスα』ができるのは、免疫システムを刺激して動かすこと。がん細胞、腫瘍をみつめて攻撃し、撃退するのはすべて免疫システムが担います。『バランスα』の可能性は、停滞した免疫システムの活性化をはかるためのサポートにすぎません。

免疫システムが正常に働くには、免疫細胞を作り出し続けることが重要です。免疫細胞の原材料はタンパク質を構成するアミノ酸とミネラル、そしてタンパク質の合成を助けるビタミン類。それらが途絶えることのないよう食事を通じてきちんと補給し続けることが肝心です。『バランスα』は、それらの消化、吸収を進め、免疫システムが正常化するスピードを早める働きをしてくれます。

■免疫システムの「始動」の重要性

今回のAさん、昨年紹介したH・Sさんの事例では、『バランスα』

を飲みはじめて1週間から10日で激しい「好転反応」が現れました。このように免疫システムは働きはじめると短時間で動きだします。この二例は、飲みはじめに1日300ml以上飲んでいただけが、一気に免疫システムを始動させるキッカケになったと考えられます。急を要する症状の方ほど飲用量を多くするのが効果的かもしれません。

■免疫システムの「激動」で免疫バランスが乱れる

Aさんの場合は『蓮バランスα』を飲んで1週間ほど、激しい下痢に悩まされました。アトピー性皮膚炎も悪化し、首回りや手足の関節裏に発疹がひろがり、半年以上も悪化、緩和を繰り返しています。

免疫システムは、外からの侵入者(細菌・寄生虫・ウイルス等)、体内の異物(悪性腫瘍等)を攻撃するときは「攻撃型」に傾き、この状態が過剰になると自分の身体を攻撃することになるので、自ら「抑制型」に切り替わります。これが免疫システムの正常なバランスの取り方です。

しかし、ステージ4まで進んだ腫瘍はある意味、身体全体ががんペースに支配されているため、働きはじめた免疫システムが「激しい攻撃型」であり続けることをやめられず「抑制型」に変わるゆとりがないためにアレルギーが収まらない状態が続いてしまいます。

これは致し方のないことで、がんを攻撃する必要性が弱まることで、免疫システムが正常なバランスを取り戻し、アレルギー症状が徐々に緩和していくようになるでしょう。

ご重篤なご病気でお悩みの方々のために、『バランスα』のご体験談をお送りください!!

がんに限らず、ほとんどの病気は、「栄養のバランス」「心のバランス」のいずれか、あるいは両方が崩れた状態にあるとき発生します。正しい意味での病気の治癒は、崩れた「栄養のバランス」「心のバランス」の回復からはじまります。『バランスα』はそのささやかな手助け、回復しはじめる心身へ戻るためのサポートができるにすぎません。

高橋剛がいうように、稲も他の動植物も、人も、生物は皆同じく、自身の中に『生きる力』を持っています。

『バランスα』は、その『生きる力』に働きかけます。

私ども高橋剛商会では、『バランスα』に関する様々な情報と共に、今後は「栄養のバランス」「心のバランス」という視点からも、その歪みの見つけ方、歪みの治し方について、ご提案をさせていただきたいと考えております。

実際に闘病された方々、ご家族を介護された方々、あるいは病気の発症にはいならず元気に過ごされている方々のご経験からも、学ばせていただきたいと考えております。貴重なご体験談を心よりお待ちしております。

*ご体験談をご送付いただける方は、同封のアンケート用紙と弊社宛封筒(切手不要)をお使いくださいね。

最初に『バランスα』無料サンプルをお試しく下さい!

無料サンプル

【お電話で申し込む】→0120-76-5812 無料フリーダイヤル

担当者が
郵便番号・ご住所・お名前・お電話番号をお伺いします

完了です

【FAXで申し込む】→0120-76-5812 無料フリーダイヤル

同封のファックス専用申込用紙に
お名前とお送り先の住所を書いてご送ください

完了です

【インターネットで申し込む】→

高橋剛商会のホームページから
『バランスα』無料サンプル申込み欄に必要事項をご記入し、ご送ください

完了です

【ご郵便で申し込む】→同封の封筒でポストに投函 切手不要

無料サンプル申込用紙に
お名前とお送り先の住所を書いて同封の弊社宛封筒に入れ、そのままポストへ

完了です

『バランスα』がよくわかる
小冊子も進呈しております。



●『バランスα読本・基礎編』
A5サイズ・64ページ・フルカラー

無料サンプルは『バランスα』500mlの商品そのものをお送りします。

!! 無料ダイヤルは、050からはじまる電話番号からご利用できません。恐縮ですが、03-3576-5811へおかけ直してください。

「ご愛飲者様アンケート」「お客様の声」こそ『バランスα』の効果の証明です!!